

活動報告【平成24年6月～9月】

述べ102名が参加しました！

伊勢宮区主催「生ごみ堆肥化講座」

去る6月2日、9日、16日に区民を対象に無料で実施。北原区長の肝煎りで区内のお年寄りを中心に「生ごみを減らして堆肥化し、花いっぱい運動につなげよう」の呼びかけで生ごみ堆肥化の方法と実践を学びました。会場の伊勢宮区公民館は、神社の隣で爽やかな初夏の風が抜けていました。多くの人が初めてでしたが和気あいあいと挑戦。昨年のアモーレフェスタで失敗したのでリベンジで来たという熱心な方もいました。

今回、生ごみチームでは、基材として「ピタコウゲン」（微生物の塊）入り廃オガを使い、その効果を多くの人に試してもらう目的もあり、3か月間のアンケートに協力して戴くことにしました。また、協賛企業の「八百音」より提供の「ぬかづけの素」を景品として配ると参加者はやる気が出たようでした。



信州環境フェアに出展

8月25日（土）、毎年ビッグハットで行われている同展にて今年も生ごみチームはキャンペーン活動を行いました。生ごみを様々な方法で減量、そして堆肥化や培養土として利用、更には花や野菜を育てる手順を4ステージで紹介。現物展示と解り易いシートでメンバーがつきっきりで解説しました。また、生ごみで育てたシソで作ったジュースを来客に振る舞い、「こども生ごみクイズ」に答えるとキャラクターグッズがプレゼントされるなどとても賑わっていました。中央ステージでは割烹着姿のチームリーダーによる「こども生ごみ教室」のパフォーマンスが参加した親子の笑いを誘っていました。



堆肥化の第一歩を熱心に説明する



梨の皮をむいて水切りするって？

伊勢宮区生ごみ堆肥化座談会

9月22日（土）これまでに生ごみ堆肥化講座に参加した区民28名が参加して、ビタコーゲン入り新基材の使用による経過報告とアンケート回収結果をもとに座談会が行われました。冒頭で、北原区長は「生ごみを減らすことは可燃ごみ年一人当たり8000円の消費を少なくし、堆肥化の点と点を結ぶことで線となり、やがては伊勢宮公園を花でいっぱいにするという夢につなげよう」と呼びかけられました。

座談会は質疑応答により「虫が出た、臭いがした、温度が上がらない」などこれまでの問題点を挙げてもらい、生ごみ減量アドバイザーの由木氏と河西氏が応答する形で進められました。

「ゴミの量を一度にたくさん入れない。燐炭や米ぬかを入れた。堆肥の袋に釘で30穴をあけて仕込み、底には乾燥剤を置いた。」「段ボールの底が抜けた。野良猫が来て困る。上から殺虫剤をかけた。」などなど工夫や困惑の率直な話が聴けて活発な意見交換会となりました。更に、「堆肥化した一次生成物を回収する缶を設置し誰もが使えるようにしたい」とチームのメンバーの安藤氏から説明があった。又、新基材を今後入手するにはどうしたらよいかの質問に対しては、メンバーの佐藤氏が期待と希望に応え、やがてはホームセンターなどで手軽に買えるようにしたいと答えていました。



9月26日、安茂里住民自治協議会・環境部会「生ごみ堆肥化講座」の体験により今年もアモーレフェスタで同講座の実施が決定しました。

今後の予定は

11月4日（日）10時～3時までアモーレフェスタにて、展示による生ごみ堆肥化啓発キャンペーンと「生ごみ堆肥化講座」

11月6日（火）県内先進地視察研修 「松代総合病院と松代社会福祉センターの生ごみ堆肥を使った庭園、松代サカイ有機、ブラウンファームとちゃたまや」